

心理学研究科

心理学専攻



科学的見地から人間の
本質や行動原理を
深く理解することを目指す。

心理学研究科とは

本研究科では、学術研究の高度化と優れた研究者養成、教育研究を通じた社会貢献と国際貢献、高度専門職業人の養成の3つを目標に掲げ、人間行動の基礎にある心理学的な機能を理解するため、実験心理学的アプローチをベースとした教育と研究を行ってきました。

心理学コースでは、心理学の高度な専門知識や研究能力を習得します。また、学外の研究機関や企業の施設などで研修を行い、そこで発見した課題に基づいた研究計画の立案や、心理学的見地から企画提案など、実践的トレーニングも行っています。臨床心理学コースでは、臨床心理学の知識の充実とともに、心理臨床センターや学外実習を通じた実践的な技能を習得します。単なる実践にとどまらない、高いレベルの研究能力を備えた科学的実践家の養成を目的としています。なお、2018年度からは、公認心理師(国家資格)の受験資格に対応したカリキュラムを運用しています。

産官学連携で実践的な教育プログラム

心理学研究科では、2007年から2009年度まで文部科学省による大学院教育改革支援プログラムに「研究センター連携型オープンフィールド教育」が採択されました。このプログラムは、心理学部の中に設置された研究センターを基盤として広く学外の研究機関や研究者、あるいは一般の民間企業との共同研究を行い、社会に役立つ心理学のあり方を検討し、それを大学院の教育プログラムとして確立していこうとするものでした。

現在、このプログラム自体は一応の成果を上げて終了していますが、このプログラムによって確立された大学院の産官学連携に関する研究と教育のシステムはその後も継承されています。このような研究・教育システムを維持することで、本研究科では現代社会が置かれた状況や問題と向き合い、その解決に貢献できる実践的な力を育成することに焦点を当てた教育と研究を展開しています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

教育課程の編成とその特色

前期課程

■心理学コース

心理学コースは、科学的な立場からの実証的研究を行う力を養成します。またインターンシップを授業の中に組み込むことで、高度な知識と研究の力に加え、現代社会に貢献し得る問題意識とプロデュース能力を育成します。さらに高度な専門知識を習得し、プロジェクトの企画立案など実践的なトレーニングを行います。

■臨床心理学コース

臨床心理学コースでは、「基礎と応用の懸け橋となる」という理念に基づき、実証的な研究能力を育成しつつ、現代社会を取り巻く諸問題の解決のために、臨床心理学の立場から貢献できる人材の育成を目標としています。臨床心理学コースを修了し、所定の条件を充足している修了生は、臨床心理士資格審査を受験する資格が与えられます。公認心理師については2018年度より受験資格に対応したカリキュラムを運用しています。

後期課程

後期課程では、心理学の専門家として独自の問題を掘り起こし、実証的な研究を通じて、心理学やその関連領域の発展に貢献するための研究能力を培うことを目標としています。「プロジェクト特別演習」では、学生自らが共同研究プロジェクトを立ちあげ、研究を推進していきます。専門領域内の活動にとどまらず、社会の諸問題を見据える幅広い視野を持ち、国際的に活躍できる研究者を育成します。

2023年度 心理学研究科 担当教員の研究テーマ

①研究テーマ ②研究概要 ③論文・著書 ※は研究指導担当教員

心理学コース

青山 謙二郎 教授※

- ①学習心理学・行動分析学の立場から、食行動や動機づけ行動が変化する法則性を探る
- ②食べる量やおいしさの感じ方に現在の環境や過去の経験がどのように影響するかを実験によって解明する
- ③共編『心理学からみた食べる行動—基礎から臨床までを科学する』北大路書房, 2017

藤村友美 准教授※

- ①表情や感情の心理・生理学的研究
- ②コミュニケーションにおける表情同調や感情に着目し、筋電図法などの生理指標を用いて、人の社会的関係性成立のメカニズムを明らかにする。
- ③Untrustworthiness inhibits congruent facial reactions to happy faces, Biological psychology, 2016, 121(Pt A), 30-38.

畑 敏道 教授※

- ①生理心理学、行動学的神経科学
- ②動物の時間評価や記憶の脳内機構
- ③①Intra-dorsal striatal acetylcholine M1 but not dopaminergic D1 or glutamatergic NMDA receptor antagonists inhibit the consolidation of duration memory in interval timing, Behav Brain Res, 2022, 419, 113669. ②The dorsal hippocampus is required for the formation of long-term duration memories in rats, Eur J Neurosci, 2021, 54, 4595-4608.

神山 貴弥 教授※

- ①開発的・予防的生徒指導と子どもの心理・社会的発達
- ②対人的接近動機を高める介入方法の開発とその効果検証、学校における異年齢交流の効果に関する研究
- ③共編『児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック—学校適応の理論と実践—』協同出版, 2009

中谷内 一也 教授※

- ①リスク認知と災害準備
- ②一般の人々のリスクに対する受けとめ方、反応の仕方について、専門家によるリスク評価と対比しながら実証的な検討を行っている。さらに、それらが災害に対する準備にどのような形で影響しているのかという問題にもアプローチしている。
- ③『リスク心理学—危機対応から心の本質を理解する』筑摩書房, 2021

及川 昌典 教授※

- ①社会心理学
- ②社会的認知、社会的感情、自己制御、意思決定における意識と無意識の働きに関する研究
- ③①Choosing across cultures: The effect of choice complexity on treatment outcomes, JOURNAL OF BEHAVIORAL DECISION MAKING, 2015, 28(5), 515 - 528. ②「自己制御における意識と無意識: 意識的編集と目標プライミングの効果」『心理学研究』2010, 81 (5), 485-491.

竹原 卓真 教授※

- ①表情の認知および顔魅力
- ②三次元カメラを使った表情の認知、男女のメイク等を通じた顔魅力、一般的な顔魅力研究。
- ③共著「上瞼が二重の顔は魅力的だが下瞼の涙袋メイクは逆効果かもしれない」『日本感性工学会論文誌』2021, 20 (2), 121-128.

田中 あゆみ 教授※

- ①ヒューマン・モチベーション
- ②達成目標の機能の解明、自律性の支援
- ③①分担執筆『絶対役立つ教育心理学(第2版)』ミネルヴァ書房, 2021 ②共著 Longitudinal association between maternal autonomy support and controlling parenting and adolescents' depressive symptoms, Journal of Youth and Adolescence, 2023.(Online ahead of print)

内山 伊知郎 教授※

- ①乳幼児の認知および感情発達
- ②主として乳幼児を対象とした行動発達や向社会的な発達研究。また、母子関係についての研究、とくに母親から子どもへの関わり方についての研究。
- ③監修「深さと怖れ」『感情心理学ハンドブック』北大路書房, 2019, 375.

余語 真夫 教授

- ①PTSDおよび有害なストレス反応の軽減・ケア・回復の実践研究
- ②致死可能性の高い専門職に就く人々が、教育・訓練課程において、いかなる知識と技能を習得することが、有事の際の致死可能性やPTSD負傷を軽減できるのか、米国海軍・海兵隊や英国海軍・海兵隊などの協力を受けながら、日本人の特性を踏まえて研究・開発し、現場に還元している。
- ③Somatic Symptoms: Association Among Affective State, Subjective Body Perception, and Spiritual Belief in Japan and Indonesia, Frontiers in Psychology, 2022, 13, 851888.

臨床心理学コース

石川 信一 教授※

- ①臨床児童心理学に関する研究
- ②子どもを対象とする認知行動療法に関する研究、学校で実施するメンタルヘルス予防プログラムに関する研究
- ③共編『臨床児童心理学—実証に基づく子ども支援のあり方—』ミネルヴァ書房, 2015

武藤 崇 教授※

- ①臨床心理学的援助作業における言語行動に対する臨床行動分析学的アプローチ
- ②認知症高齢者を介護する家族の負担感軽減とQOL拡大に対する心理・社会的アプローチ
- ③編者『臨床言語心理学の可能性—公認心理師時代における心理学の基礎を再考する』晃洋書房, 2019

興津 真理子 教授※

- ①心理療法におけるクライアントとその家族へのアプローチに関する研究
- ②家族療法や力動的な心理療法の考え方、家族造形法をはじめとする技法による、家族への介入および家族のことで課題を感じておられる個人への心理療法に関する研究
- ③「家族造形法による空間的距離と質問紙による心理的距離との関連について」『心理臨床科学』2012, 2(1), 49-56.

杉若 弘子 教授※

- ①行動マネジメントに関する臨床心理学的研究、他者との相互作用に注目した適応と健康
- ②セルフ・コントロールによる行動の抑制と促進、利他的行動との関わり、人と環境の相互作用にみる個人差、アサーション
- ③①共著『セルフ・コントロールの心理学—自己制御の基礎と教育・医療・矯正への応用—』北大路書房, 2017 ②『セルフ・コントロールの実験臨床心理学』風間書房, 2003

TOPICS ポートフォリオを活用したキャリア能力の開発—「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」採択事業—

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」とは同志社大学が掲げる「同志社大学ビジョン2025」に基づき、質の高い教育プログラムの提案と費用対効果が期待できる学部・研究科の取り組みに対し、事業経費の一部を大学が負担することで、その事業の推進を支援する制度です。心理学研究科では2019年度からこの制度による支援を受け、ポートフォリオを活用しながら、個々の大学院生のキャリア・ビジョンに応じたきめ細やかな研究・実践指導並びに活動支援を行っています。自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて未来を切り拓く人物を養成することが、この取り組みの目標となっています。

